



転勤して 長崎へ来た。

そして、色々感じたこと、あったこと

あったこと、やっていること。



{ ばってんうーまん、12月例会は新しいメンバーをむかえした。
その彼女と語り合ったこと、共感した事を語りましよう。 }

長崎へ来て、私が生意気と言われる回数がとて多い。女性の先輩はまるでラットみたい。男の雑用を引受けて走り回っている。男はお茶汲みをさせるだけで仕事は教えてくれない。「多目に働かなさう認めてあげよう」というけど、お茶汲みや煩雑な雑用をしていると自分をstep upする為の仕事は出来ない。自分の仕事を大きな目で見られない。(男だてしてみればわかるワヨ) だから自分で大阪へ研修に行った。それ以来、雑用が少なくなると生意気、レベルがはうれた。男と女、同じお給料になう生意気な女の力がよく働くのに、私は生意気でがんばる。



お役所から天下りしてきた上司。「～君、この人さみしがっているから飲みにつれて行ってくれよ。仕事を認めようとして、私生活の世話をやく」

新任のあいつをしてオー声。「あなた結婚しているのですか？」とへんな質問もいろいろされる。

オー声は仕事の話ではじめてほしい。女は「何ソレ!」「仕事に何の関係があるの?」とおこして言う。すると初老の男性が「日本にはややうあいつがあるんだよ」と言う。更に「日本の言い方なら、今時の若い女はアメリカナイズされて～」とツラれた。

プライベートに満足できない事が親しくなる事と思っている。



組合の集會

職場で「こんな事をしなさい」という話が出るけど

「こんな事がしたい」「こんなイベントは不要だ」という

発言は出ない。

組合の婦人部を支えているのはシングル女性ばかり。一番思慮を欠けている共働きの人々の活動が少なく、女が子供を産む事を大切にする。それはわかるが、独身を選択して生きている女性の要求もきいてほしい。働く母と主婦の要求、以外明々を出すのがタブーになっている様に感じる。女が結婚し、子育てをするパターンにすれば人は少教派という感じがして要求を出しにくい。

すべての事が世帯単位になっている。税金のわり方も個人ではなく世帯単位。

シングルの女性も望々と要求を出したい、と切望している。

